

## '01 秋田大学

### 解説

(1) 直線  $l$  の傾きを  $a$  とすると,  $l$  の方程式は

$$y - p^2 = a(x - p)$$

すなわち  $y = ax - ap + p^2$

放物線  $y = x^2$  に接することから,  $x^2 = ax - ap + p^2$  が重解をもつ.

$x^2 - ax + ap - p^2 = 0$  の判別式を  $D$  とすると

$$D = 0$$

よって  $D = a^2 - 4(ap - p^2) = 0$

ゆえに  $(a - 2p)^2 = 0$  したがって  $a = 2p$

よって  $l: y = 2px - p^2$

同様にして  $m: y = 2qx - q^2$

$2px - p^2 = 2qx - q^2$  を解くと

$p < q$  であるから  $x = \frac{p+q}{2}$

このとき  $y = pq$  ゆえに  $R\left(\frac{p+q}{2}, pq\right)$

(2) 2直線  $l, m$  が  $x$  軸となす角をそれぞれ  $\alpha, \beta$  とすると  $\tan \alpha = 2p, \tan \beta = 2q$

よって  $\tan \theta = \tan(\alpha - \beta) = \frac{\tan \alpha - \tan \beta}{1 + \tan \alpha \tan \beta}$

$$= \frac{2(p - q)}{1 + 4pq}$$

(3)  $pq = -2$  であるから  $p = -\frac{2}{q}$

また,  $p < q, pq < 0$  であるから  $p < 0, q > 0$

よって  $\tan \theta = \frac{2\left(-\frac{2}{q} - q\right)}{1 + 4 \cdot (-2)} = \frac{2}{7} \left(q + \frac{2}{q}\right) \geq \frac{2}{7} \cdot 2\sqrt{q \cdot \frac{2}{q}} = \frac{4\sqrt{2}}{7}$

等号が成り立つのは

$q = \frac{2}{q}$  すなわち  $q = \sqrt{2}$  のとき.

このとき  $p = -\sqrt{2}$

ゆえに,  $p = -\sqrt{2}, q = \sqrt{2}$  のとき最小値  $\frac{4\sqrt{2}}{7}$

## '01 秋田大学

(4) 点 R から直線 PQ に垂線 RS を下ろすと

$$\tan \theta_1 = \frac{SR}{PS}, \quad \tan \theta_2 = \frac{SR}{QS}$$

$$\text{よって } \frac{1}{\tan \theta_1} + \frac{1}{\tan \theta_2} = \frac{PS}{SR} + \frac{QS}{SR} = \frac{PQ}{SR}$$

$$\begin{aligned} \text{ここで } PQ &= \sqrt{(q-p)^2 + (q^2 - p^2)^2} \\ &= (q-p)\sqrt{1+(p+q)^2} \end{aligned}$$

また, 直線 PQ の方程式は

$y - (p+q)x + pq = 0$  であるから

$$SR = \frac{\left| pq - (p+q)\frac{p+q}{2} + pq \right|}{\sqrt{1+(p+q)^2}}$$

$$\text{したがって } \frac{1}{\tan \theta_1} + \frac{1}{\tan \theta_2} = \frac{2\{1+(p+q)^2\}}{q-p}$$

### 講評

三角関数のグラフへの応用問題。(1)は有名な性質。(2)以降も難易度としては基本的。問題を眺めているだけでなく、実際に計算をしていくとすぐに解けるだろう。分数関数の最大・最小は、 $|A| \leq B$ の範囲では相加・相乗平均を使うのが基本的な考え方であることは確認すべき内容。三角関数の基本的な関係をきちんと押えておきたい。